

2020年4月3日



【第3版】

新型コロナウイルス（COVID-19）へのJAGガイドライン

感染が拡大し、見通しが立てにくい状況となっています。先の教区への緊急アンケートと政府の専門家会議の見解を踏まえ、新型コロナウイルス対策の教団基本方針を更新します。

- 教団では地域性、教会状況を考慮し、全国一律の指示は出しません。
- 理事会は JAG ガイドラインをもとになされる教区、教会、信徒の自主判断を尊重します。尚、第2版を含む、この方針の適用期間は4月末までとし、必要に応じて更新されます。
- 政府の専門家会議の見解によれば、感染状況により、東京や大阪などの「感染拡大警戒地域」、「感染確認地域」、「感染未確認地域」の3つの地域に分けられ、地域性に即した対応が求められています。「感染拡大警戒地域」では10人以上の集会を避け、感染者が一定程度増えている「感染者確認地域」では、屋内での50人以上の集会の参加を控えるようにという内容です。自分の教会のある地域がどういう状況にあるかが、礼拝休止の判断の基準になります。緊急アンケート調査にも戸惑いや混乱がある教会が散見されました。

(1) 各教会の礼拝・諸集会の開催・出席の是非について

- 各教会の礼拝・諸集会の開催や中止について、信徒の皆様は各教会の主管者、担任教師、役員会の議を経た決定を尊重し、祈りつつ実行してください。
- 最終的な礼拝出席の是非に関しては個人の判断（信仰）を尊重します。
- 教会での礼拝を中止する場合は、教会員が家でも礼拝が捧げられるよう努力してください。賛美、祈り、献金することができ、文書やメール、ネット配信等、様々な形でメッセージが提供できるように努めてください。
- 普段と違う不安な日々だからこそ、自分自身や周囲への「いたわり」と「感謝」を、言葉や態度で示すことに、普段より意識して行動してみませんか。

(2) オンライン礼拝についての方法と注意点

- オンライン礼拝をしたいがどのようにしたら良いかわからない場合は、教区長に相談し、教区内の互助においてするか、教団本部にご相談ください。
- 礼拝を中止し、インターネットを利用した礼拝ライブ配信に移行した教会では、ライブ配信が信仰の建て上げやこれまでの交わりには充分ではないという事も感じられていると思います。オンライン礼拝ができることと、できないこと考え、それぞれの教会でそれをどのように補えるかを話し合ってください。

(3) 教会員、教会関係者が感染者となった場合

- 新型コロナウイルス感染による症状は主に以下のようなものとなります。
 - ・ 4日以上続く 37.5度以上の発熱
 - ・ 1週間以上続く風邪のような咳やくしゃみといった症状
 - ・ 強い全身のだるさ、呼吸がしにくいと感じるほどの息苦しさまたその他にも下痢といった症状も確認されており、特に上記重篤化リスクの高い高齢者や持病のある方、妊娠されている方は早めの相談をするように呼び掛けられています。
- **【第2版】**にありますが感染防止対策をしっかりと継続して行ってください。
- 牧師または教会員の関係者が濃厚接触者である場合は、管轄の保健所の指示に従い、自宅待機し、感染確認や治療を進めてください。
- 牧師または教会員から感染者がでた場合、まず行わなければならないのは「伝染させない・悪化させない」ことです。教会の礼拝・諸集会等をすべて中止し、管轄の保健所の指示に従ってください。
- 上記のいずれの場合でも、速やかに教団総務局長または事務局長までご連絡ください。
総務局長 本田勝宏師（携帯電話 090-5026-8730 メール khonda2@mac.com）
事務局長 三箇義生師（携帯電話 090-6453-0184 メール seven7eyes@mac.com）

(4) 献金について

- 教団では、3月から5月までの教団負担金の20%還付を実施しますので、還付には各月の負担金の送金と教会報告書の提出が必要となります。
- 礼拝や集会の自粛に伴う献金収入の減収の場合、教会運営や銀行ローンの返済をどのように維持するか、役員や教会員と「教会会計」について検討ください。
- 現在、教団の公式サイトに各教会への献金がクレジットカードやネットバンキングでできるページを準備中ですが、もう少し時間がかかります。

(5) 部・委員会・室の開催について

- 部・委員会・室の開催についてはそれぞれの判断に委ねますが、できるだけ公共機関の利用を避け、SkypeやZoom等でインターネット会議が可能な場合はそれを優先してください。
- 教団本部での4月中の部会・委員会・室のミーティングはできる限り避けてください。

(6) 「共同の祈り」のお願い

- 教団公式サイトに新型コロナウイルス感染のための「共同の祈り」を掲載しています。全世界のアッセンブリー教団でこの「共同の祈り」を利用し、心をつなげて、同刻の祈りしていますので、各教会でもご一緒にお祈りしましょう。